

企業を活かす人材活用
人材が輝く企業の現場

第9回

株式会社パック・エックス
キャリアカンパニー

野心を持たずして幸せな転職はない 転職先で成功した人材が語る「心構え」

静岡県でパチンコ店10店舗を経営する株式会社アプライ。アミューズメント事業部の畑雅樹本部長と営業支援部の大野浩一部長は、ともに中途入社ながら、数年のうちに執行役員へと上りつめた成功者だ。両氏に共通する転職時の思いは「社長になりたい」。こうした野心こそが、キャリアアップを目指す転職には不可欠だという。

これまでこのコーナーでは、ンパニーCEOの松林孝征が、おもに転職者を受け入れる企業側の視点から、企業が望む人材像や、中途採用を行うこととのメリットについて聞いてきました。今回は趣向を替え、「成功した人たちはどのような思いで転職に臨み、就職先でいかに頑張ってきたか」にフォーカス。ともに人材紹介による中途入社ながら数年で執行役員へと上りつめたアプライの畑雅樹アミューズメント事業本部長、大野浩一営業支援部長のお二人に、バック・エックスキャリアカ

目標のある転職は誰にも止められない

松林 今回は企業の視点というより、畑さん、大野さん個人にフォーカスしてお話を伺い、そのなかでキャリアアップの先輩として、これから転職によるキャリアアップを考えている方々へのアドバイスとなるような言葉を聞き出せたらと思っています。それでは初めに、転職を決意したきつ



株式会社アプライ
アミューズメント事業部 執行役員 本部長
畑 雅樹(はた まさき) (写真右)
40歳。2001年に27歳でアプライに入社。
営業支援部 執行役員 部長
大野 浩一(おおの ひろかず) (写真左)
37歳。2004年に26歳でアプライ入社。
静岡市内の本社で、手にしているは同社マスコットキャラクターの「アビエル」。

かけや、御社を選んだ動機について伺えますか。
畑「私の場合は、率直に言う

途採用をそれほど行っていない時期なので『よそのものが来た』という空気は感じていました。
ただ、そうしたことは気にしないようにしていました。全く気にならないといえませんが、入社してからも仕方がない。当時、副店長のポストで入社していたので、結果を出さなければならぬというプレッシャーはありました。だからこそ数字で結果を出すことで周囲を納得させるしかないと考えました。比較的早いうちから結果を出

すことができたので、これは運もよかったです。もちろん、人一倍働いたという自負はあります。今の時代にはそぐわないので、どれだけやった、みたいな話はありませんが。

ただ、苦労を苦労だと思っただけでいいですね。知り合いが一人も居ない土地で、ストレスも多分あったと思います。それでもパチンコが好きだったし、仕事も好きだった。会社の業績が伸びるのがとても楽しかったのです。大野「上昇志向や野心・野望



飄々とした畑本部長と、熱血漢の大野部長。第一印象は真逆なイメージのお二人だが、ともに中途入社から短期間で執行役員に上りつめた実力者だ。

はとても大切です。現在採用にかかわっている立場としてアドバイスさせてもらうなら、転職には成功と同時に失敗のリスクもあるという事実をしっかり受け止めてほしいですね。中途採用で転職者のわがままを受け入れてくれる企業は100%ありません。どれだけ新しい会社かだけを見ています。今いる会社がいやだから、というのには正直転職の理由としてはダメだと思います。転職に注ぎ込むパワーがあるなら、現在の会社で頑張る努力をした方がいい。それでも転職したいという欲求が抑えられない時。それは、『将来こうなりたい』というビジョンがはっきり見えていて、そこに向かうには今いる会社ではダメだと明確になった時だと思えます。転職を成功させるためには、将来なりたい自分の軸を持っていることが大切。これがぶれると転職を繰り返すきっかけになりかねません。当然、転職を繰り返すようでは採用担当者の心証も悪くなく、結果的に自分を追い込むことになってしまいます」

成功のカギは、いかに周りに認めてもらうか

——実際、お二人は御社で成功されて執行役員の地位に着かれていくわけですが、「中途入社先で成功するための秘訣」のようなものはありましたか。
畑「心がけていることを一つ挙げるならば『失敗した原因を外に求めてはダメ』ということです。私自身失敗はたくさんあります。ただ、失敗でよくよくしても仕方がないので、2度と同じ失敗は繰り返さないと言いつつ、失敗を取り返すためにがむしゃらに頑張りました。ポジティブ過ぎて困りものですが、基本的にはポジティブでないと、転職先では上手くいかないと思います」
大野「私の場合は、会社の人たちにどうやって認めてもらうか考えるのに全力を費や



株式会社パック・エックス
キャリアカンパニーCEO
松林孝征
まつばやし たかゆき
大学卒業後、大手人材サービス会社を経て、2000年に(株)パック・エックスに入社。パチンコ業界における人材紹介事業の第一人者。これまで数々の転職支援、中途採用コンサルティングに携わる。

しっかりと生きて、とても居心地のいい会社でした。そこでキャリアを積むという選択もあったのでしようが、私は出世のスピード感にこだわりたかった。そこで松林さんに紹介をお願いして、当社との縁ができました。選んだ理由は、上を目指せる会社だと思っただけです。ちょうど人が入れ替わるタイミングだったこともあり、チャンスがあると感じました」
大野「私に関しては前に在籍していた会社が、諸事情により倒産することが分かっていました。そこでオーナーに了承をいただき、転職活動をしていったという経緯があります。当社を選んだのは、面接の際に社長の山本からかけていただいた『あなたを将来なりたいたい姿を応援したい』という言葉が大きいですね」
——実はお二人とも「社長になりたい」という目標があると伺っています。入社までの経緯はそれぞれだと思のですが、上昇志向の強さは共通していますね。
畑「確かに昔から上昇志向は強かったですね。だから入社